

明日へ向かって

本日、ここに 2019(平成 31)年度、静岡英和女学院中学校・高等学校の始業式を迎えました。英和は今年、創立 131 周年、132 年目を迎えます。

一昨日、6 日、土曜日、中学校 1 年生 63 名、高等学校 1 年生 84 名の皆さんが厳かで、また温かい入学式のうちに英和へ迎えられました。ちょうどその日は静岡まつりの「夜桜乱舞」が行われ、沿道は英和女学院のロゴ入りの長い法被が、スクールカラーのえんじ色のグラデーションがかかり印象的でした。そして、それ以上に、弾けるように満面の笑みで踊る皆さんがとても素敵で、クールでした。まるで新入生を歓迎しているようで、とても感動しました。

改めて英和へ入学された新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、本年度、新たな教職員の方々をお迎えしました。後ほどご紹介いたします。先生方のご活躍をお祈りして、歓迎して頂けたらと願っています。宜しく申し上げます。

そして在校生の皆さんも進級おめでとうございます。新しいクラスメート、担任の先生、教科の先生となります。心新たに、神様の見守りと導きの下、よき実りある一年を過ごされますように、皆さんの成長を楽しみにしています。

さて、最初に、少し唐突ですが、私が小学校 1 年生の終わりの頃のお話をしたいと思います。私が小学校 1 年生の終わる頃の話です。父と母、弟、そうしてちょうど三番目の初めての女の子、妹が生まれた時のことでした。わが家は東京から横浜へ引っ越しをすることになり、私は入学して一年しかたない小学校を転校することになりました。その時、私は担任の先生に、今度、「家（うち）はフランスのパリへ引っ越すことになりました」と言いました。担任の先生は驚いて家まで来られるという騒ぎを起こし、「どうしてそんな嘘を言ったの」と親に叱られました。

それから十五年ほど経って、私の両親の子育ても終わりに近づい

た頃、家に帰省した私に、母は当時のことを懐かしく思い出しながら「いいのよ。子どもの嘘は夢だからね」と言いました。もうすでに成人していた私でしたが、そう言われた時、長い月日があっという間に逆戻り、当時、嘘を言った私が赦されたようで、とても驚きました。そしてこの母の言葉が、やがて教壇に立ち、親になっていく私にとって、生徒や子どもを見守る力となりました。

その後、結婚して女の子、そして男の子が誕生して、本と映画好きの妻の影響で、皆さんも小説、アニメ、映画でご存知の『赤毛のアン』を知りました。アンは次々と起こる失敗や悲しい出来事にも、想像力豊かにユーモアたっぷりに受けとめ、自分の夢の世界をお喋りします。時に、それは大人からすれば「嘘」であって、言ってはいけない、してはいけないことでした。でもアンはおじいさんのマシューやステシー先生から励まされ、乗り越え成長していくのでした。映画のある場面です。教室で周囲から誤解を受け、失敗を繰り返すアンに、恩師であるステシー先生が励まします。

Remember, we can always start everything fresh tomorrow.

「忘れないで、明日になればまた全てを新しく始められるのよ」

そして、アンが答えます。

Tomorrow is always fresh with no mistakes in it.

「明日はいつも新しい、そしてまだ失敗のない一日ですね」

とても有名な言葉です。

嘘はいけません。そして何か悪いことを言ったり、失敗したことを謝りもせず、正直に言わないで、隠したりすることもよくないことです。でもそれがいけないことだと知るのは、人に言われて頭でわかることではありません。実際に自分で失敗を重ねて、悲しい思いや悔しい思いをしながらも、想像力やユーモアで乗り越え、少し

ずつ受けとめられるようになって成長していくのです。それには、共に生活する人同士の愛情が必要です。そして祈りの時のように、静かにふりかえる、自分自身を取り戻す時にも必要です。私たちは神様からお互いに愛し合うように造られました。その最も深く、尊い、愛し合っている姿が祈りの姿です。祈りはお互いの未熟なところ、誤解や失敗を受けとめ、赦し、愛し合う姿です。

この一年も「主を愛し、隣人を自分のように愛する」との聖書の言葉を与えられた英和生として、祈りの時を大切にしてお一人おひとりに与えられた賜物に感謝し、互いに敬い、励まし合い、赦し、愛し合い、神様がお一人おひとりに与えて下さっている目的に向かって、共に成長していくことを祈ります。

2019年4月8日

2019年度始業式 奨励

校長 **大橋 邦一**